

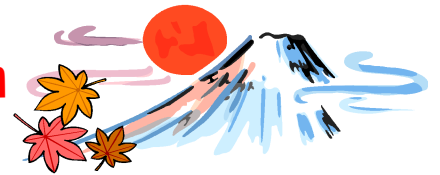
銚子七中
学校だより

坂東太郎

令和2年11月6日
第30号

校長閑話

COUNT DOWN 開校まであと 140日



日本文化の継承

雨模様の先週末、放課後に漢字検定試験が開催されました。最近では外国の方々もチャレンジされるようで、先日テレビ番組で1級を取得された方の紹介をしていました。漢字に大変興味があることが受検をするきっかけになったということだそうです。今では、日本独自に発達した漢字にも興味を持っているということでした。この方のように最近、日本の文化に傾倒している外国の方が増えていることに気がきます。私たち以上に日本の文化を知り、そして大事にしようとする外国の方々の姿勢は学ぶべきことが多くあるようです。20代の頃にオーストラリアを訪ねた時、現地の方に「最近シドニーのオペラハウスで歌舞伎の公演があったのだが、歌舞伎のことをもっと知りたい。説明してくれるか？」何も返答できない自分に自問自答しました。「私はどこの国の出身？」と。

今の時代では歌舞伎はかなり身近な存在となりましたが、はたしてその詳細を語れる日本人はどれ程いるのでしょうか？ダイバシティ（多様性）の広がりつつある現代ではありますが、本校の生徒には日本の文化をしっかりと語れる日本人、そしてグローバルな人材になってもらいたいと願っています。漢字の知識を深めることもその一つです。全員合格、がんばれ七中生！



10月を振り返って



16日（金）高校進学に向けて

3年生の保護者対象に進路説明会が開催されました。今年度は感染症対策のために、生徒の参加はありませんでした。生徒には12日（月）の6校時に3年生の教室では進路指導の授業が行われていました。ノートには志願理由等を記入する項目がありましたが、皆苦戦をしているようでした。現在では100%の高校進学率です。当たり前になってしまったその理由を探すのは難しいかもしれません。私は進学の原因を2つ考えています。1つは「将来を考える時間になる」ということ。中学生までに将来の夢を語れる生徒は多くはありません。高校へ進学してからじっくりと自らの素質適性を見出し、進路を決めていくこともよいと思います。また、2つ目は「将来に幅が広がる」ということです。専門的職業を選択するとなれば、高校卒業は必須です。この先、ウイズコロナの時代に生きていく上では、様々な職業が生まれることなのでしょう。その時必要な資格を得るためには、高校卒業も必要条件となるかもしれません。

20日（火） 学校訪問

本日は市教委による学校訪問でした。生徒は普段と違い多くの来客者に多少緊張気味でしたが、授業が始まるといつものように活発に発表をしていました。今回来校された方々からは閉校に向けてのアドバイスを沢山頂きました。あと163日。生徒と共に全力で七中のレガシーを築き上げていきます。

26日（月） 修学旅行代替行事

「いただきまーす！」。ゴマ豆腐、お造り（刺身）、てんぷら、牛肉ステーキ、五目御飯、みそ汁、デザートと最高の昼食を頂きました。本日は修学旅行の代替行事の日でした。朝から天候にも恵まれた中、「電車を止めるな！」の映画鑑賞をし、テーブルマナー講習会を受け、犬吠埼での体験活動を行い、愛宕山の展望台では360度の地球サイズの景観を望み、素晴らしい1日を過ごすことができました。福島への修学旅行が実現できなかったことは大変残念でした。しかし生徒のだれもが楽しく、また充実した1日を過ごすことができたことで大きな満足感を得たようです。間もなく川柳や風景画スケッチが完成し、その展示で感慨深い今日の日を振り返ることになるでしょう。卒業アルバムには貴重な1ページがまた増えました。